

平成20年 5月20日

砺波医師会誌

杏和だより

第190号

◇◇◇ 目 次 ◇◇◇

〔時 評〕・長寿医療制度だと？	高橋 卓朗	2
〔砺波医師会役員〕		3
〔活動報告〕		4
〔弔 辞〕		7
〔花 暦〕・回転椅子	桐澤しょう二	8
〔散居村〕・最近の産婦人科について	津田 博	9
・産婦人科医の妊娠・出産体験記	津田 恵	10
・春の日に	豊田 葉子	12
・百寿者	永井 忠之	13
・美術館あれこれ	中嶋 憲修	14
・隣の中国	仲村 洋一	15
〔新入会員紹介〕	市立砺波総合病院 健診センター 瀧 鈴佳	16
〔婦人部だより〕・遊びをせんとや・・・	高橋 睦美	17
〔編集後記〕	福井 靖人	18

発行所 砺波市幸町6番4号

砺波医師会

発行人 砺波医師会長 高橋 卓朗

長寿医療制度だと？

砺波医師会長

高橋卓朗

今年4月から65歳以上を対象とした高齢者医療制度がスタートした。65歳から74歳までを前期高齢者、75歳以上を後期高齢者として区別しそれぞれの医療を提供するという。

前期高齢者は国保とその他の被用者保険に属しながら国保医療給付費を保険加入者の数に従って負担し合う。これにより一定の経過措置を経て、退職者医療制度は廃止されて一つとなる。一方後期高齢者は保険料徴収から医療給付にいたるまで一つの新しい保険制度に組み込まれる。この後期高齢者医療制度では都道府県で広域連合が設立され、市町村との役割分担がなされる。保険料の収納、督促、申請者の受付などは市町村が、給付の審査、支払いは広域連合が行う。この制度では都道府県間や市町村間の高齢化率や財政事情によって保険料の率や額、給付額などに格差が生じる恐れがある。またこの制度の不備は保険者が不明で市町村間で負担を押し付けあうことになりかねない。

2年前にこの制度が実施されることが判ったときにこれほどひどい制度であると思わなかった自らの不明に忸怩たる思いである。そもそも医療保険を年齢で区分している国が他にあるのだろうか。「姥捨て制度」と呼ばれる所以である。世界に恥ずべき制度といわねばならない。まして一定額以上の年金受給者からは保険料を年金から天引きする等の行為に至っては、個人の財産権をも踏みこむ極めて悪質な手法である。

この制度では外来の後期高齢者に対する差別政策は明らかだが、入院でも一般病院では90日を越えると後期高齢者特定入院基本料の算定が始まり、診療報酬の3分の2以下に減額され、投薬、検査には支払われなくなるのである。これは後期高齢者の病院からの追い出しを意味する。

また障害者は65歳からこの制度に組み込まれ同様の扱いを受けることになる。これも一見障害者保護にみせかけているが差別に他ならない。障害者自立支援法の実施で障害者の受けた不利益を忘れてはならない。

老人、障害者、患者などの弱者が最初に捨てられかねない。リハビリの日数制限、療養病床削減、後期高齢者医療制度の実施に強い危機感を持つものである。

この度、茨城県医師会、埼玉県医師会は日本医師会に先駆けてこの制度への反対を表明した。私たち医療関係者は連帯してこの制度の廃止に向けて行動しよう。

老人、子供、障害者の住めないような世の中で誰が長寿を保てよう。誰が名付けたのか「長寿医療制度」が聞いて呆れる。

砺波医師会役員

(平成20年4月1日～22年3月31日)



活動報告

(平成19年11月～平成20年4月まで)

平成19年11月

- 12日 定例理事会
県・郡市医師会協議会
- 15日 砺波市学校保健研究会
- 19日 砺波MC部会
- 20日 砺波准看護学院改修工事建設現場巡視研修
- 27日 学術講演会「慢性肝炎の診断と治療」
金沢大学医学部附属病院消化器内科准教授 酒井 明人
- 29日 広報委員会（県医）

平成19年12月

- 10日 定例理事会
- 14日 砺波准看護学院運営理事会
- 16日 県医師連盟小委員会
- 18日 学術講演会
「CKDは心・脳・血管のリスクファクター～CKD診療ガイドから～」
日本医科大学腎臓内科教授 飯野 靖彦
- 27日 県医療対策協議会
県医療審議会

平成20年1月

- 8日 県・郡市医師会長懇談会
- 15日 定例理事会
第4回特定健診・特定保健指導委員会
- 17日 介護保険—主治医研修会
「本県の介護保険の施行状況等について」
県高齢福祉課介護保険班主幹 宮川 明久
「主治医意見書記入の手引きについて」
県高齢福祉課介護保険班主任 高島 英紀

「主治医意見書記載上の留意点」

南砺市医師会介護保険担当理事 矢島 眞

「障害者自立支援法に係る主治医意見書について」

県障害福祉課副主幹 齊木 志郎

県身体障害者更生相談所主任 中川 寛淑

21日 第24回砺波胸部疾患検討会

22日 学術講演会

「胃潰瘍診療ガイドライン第2版の改訂ポイントーH.pyloriの2次除菌療法とNSAIDs潰瘍を中心にー」

富山県立中央病院医療局長・内科部長 野田 八嗣

26日 平成20年度砺波准看護学院入学試験

28日 平成20年度特定健診・保健指導打合せ会（理事のみ）

29日 砺波准看護学院運営理事会

31日 臨時代議員会（県医）

平成20年2月

1日 砺波地域産業保健センター小委員会

5日 産業保健小委員会（県医）

T-DOIT2ミーティング

6日 平成19年度臨時総会（役員選挙）

12日 定例理事会

18日 第25回砺波胸部疾患検討会

学術生涯教育委員会（県医）

26日 学術講演会「パーキンソン病の診断と治療」

独立行政法人国立病院機構 医王病院臨床研究部長 石田 千穂

富山県医療審議会

富山県医療対策協議会

27日 第2回砺波地域産業保健センター運営協議会

28日 臨時代議員会

特定健診・特定保健指導説明会（砺波・南砺市・小矢部市医師会合同）

29日 平成20年度特定健康診査等事業説明会

平成20年 3月

- 3日 第5回特定健診・特定保健指導委員会
- 6日 砺波准看護学院卒業式
- 7日 医師信用組合理事会
- 10日 定例理事会
- 12日 第6回特定健診・特定保健指導委員会
- 17日 介護保険委員会（県医）
第26回砺波胸部疾患検討会
- 21日 結核予防医師研修会
「結核の現状について」
砺波厚生センター所長 横川 博
「感染症法下の結核対策」
財団法人結核予防会結核研究所
対策支援部企画・医学科科長 星野 齊之
- 24日 医療保健打ち合わせ会
- 26日 診療報酬改定説明会
- 27日 医療安全研修会
- 30日 平成20年度定例総会
学術講演会「アレルギー性鼻炎の治療」
金沢大学大学院医学系研究科脳医科学専攻感覚運動病態学准教授
三輪 高喜

平成20年 4月

- 7日 県・郡市医師会協議会
- 10日 砺波准看護学院入学式
- 14日 定例理事会
- 17日 定例代議員会
- 21日 第27回砺波胸部疾患検討会
- 22日 学術講演会「対人恐怖と社会不安障害」
金沢大学名誉教授 栗津神経サナトリウム 越野 好文
- 25日 広報委員会

故 杉下尚義先生を偲び、葬儀に読み上げました「弔辞」を寄稿いたします。

弔 辞

今は亡き 杉下尚義先生のご霊前にお別れの言葉をささげます。

先生は大正3年杉下尚一様の長男として、鷹栖出でお生まれになり、94歳の今日までお元気でおすごしでした。

昭和20年 医学専門学校を卒業され、昭和22年には地元にお帰りになり以来60年間地元おいて頼りになる医師としてその職務を全うされました。

その間砺波医師会の重要な役職を数多く務めて頂きました。昭和27年より砺波医師会の理事にご就任以来、富山県医師会代議員、富山県医師信用組合の監事、富山県医師会裁定委員などを歴任されまして、昭和51年から54年まで4年間砺波医師会長として会員の先頭に立ち地域医療の推進に努めていただきました。

又、永らく警察医として夜昼となく、この世から不自然に去って行かれた人たちの検視に立ち会われておりました。

これらの医師会活動や警察医としてのご活躍から、平成4年勲五等双光旭日賞を受賞されました。今でもあの時の喜びは、私達の誇りであり、目標となりました。

私も昭和42年に開業いたしまして以来、幾度も暖かいご指導を頂きました。先生の医師会長時代には、庶務担当として何回もご自宅にお邪魔して、奥様の得意のお料理を頂きながら、ご指示を頂きましたことは、ついこの間のように思います。

その中で、開業医として一番大切なことは、「診察を受けにこられた患者さんはあなたを信頼してこられたのであるから、その心に十分に答えられるように、大切にしてください。」といわれた言葉が今でも頭に残っています。

お酒の宴会では、豊富な人生経験からにじみ出てくる、洒脱で、人の心にピンとくる数々のお言葉は、今でも懐かしく思いだされます。

晩年、ご令息様に後を譲られて後、体を少し悪くされ、お会いできる機会が少なくなり気がかりではありましたが、今このようなお別れしなければならなくなりました。お世話になった先輩が一人去り、二人去りと次第に残り少なくなり、寂しさが募るばかりです。

でも、ご令息の尚康先生も地元の頼りある開業医として、そして砺波医師会の重要な役員としてご活躍しておられます。

残りました私達は先生が示されました郷土愛を受け継ぎ、地域医療に最善の努力をいたしません。どうか安心して安らかにお眠りください。さようなら。さようなら。

合 掌

砺波医師会顧問

河 合 康 守

回 転 椅 子

虫子しの寺室なになに有難し
 何の虫鳴いて回転椅子止まる
 放歌高吟むかしや月に吠えし歳
 産科閉じ枕と低く寝る良夜
 月清し二八に還る逍遥歌



大 腦 皮 質

残る虫母の筆筒に古る明治
 十月三十日大脳皮質に勅語あり
 白衣にも流行のあり白鳥来る
 雁渡し老医に午後は遅々と過ぎ
 産科の灯消しても産医十三夜

布 子

胸一杯抱く奥能登冬の海
 祖母さまの布子と言ひし今も着る
 ジブたぎる湯気の中より能登言葉
 着膨れて花子昭子も祖母となり (豪農のお手伝いさん)
 冬入日海の彼方の誰の顔 (戦没の友多し)

冬 帽 子

治療指針今日のははや過去落葉舞う
 丁字油は戦国の香よ吹雪くる (重代)
 命いまに頼られていし河豚の宿
 明治なほ脈整然と冬日差し (義母)
 冬帽子父の齢ははるか過ぎ

懐 炉

百七才初夢語りも聞かざりし
 人葬る雪より白く軽き骨
 後生大事と遣り懐炉と角帯と
 その一生シネマのごとし雪舞へり
 冬星座明治の気骨一つ消へ



椅 子 席

賜りし椅子席に老い法然忌
 残る雪いつまで執るやメス、鉗子
 春泥ヤルノーは遠しこの道を
 春の雪性教育てふ綺麗ごと
 仮設にも慣れしと能登の花便り

最近の産婦人科について

津田産婦人科医院

津 田 博

最近、産婦人科医は絶滅危惧種であるという人がいる。

全国的に医師の数が増加している中で産婦人科医師は30年前からみると約3,000人の減少がみられ、富山県内においても分娩を扱う産科医が減少し、最近産婦人科を閉鎖する病院さえあります。私が産婦人科教室に入局した当時（16年前）、大学病院の産婦人科の医局員はほとんどが男性医師で、女性医師は2人しかいませんでした。その後、女性医師がだんだん増えはじめ、産婦人科医の男女比は1：2で女性が多く、全国的にも20代だと70%、30代だと50%を占めています。産婦人科の年配医師は男性医師、若い産婦人科は女性医師が多く占める構図になっています。また、産婦人科医の転科や県外へ流出していく方もおり、また新医師臨床研修制度が導入された04年度以降は、富山県内で産婦人科医を志してくれた医師は女性医師1名しかおらず、県内の産婦人科医は減少してきています。

こうした異常とも思える減少の1つは、お産は母子ともに健康で当たり前、100%正常出産であることが期待されているため、産婦人科の医師が訴訟される率は他の科と比べ3～4倍と高くなっています。また、不規則な拘束時間や待遇にあると思われます。

知っている方もいるかもしれませんが、福島県立大野病院での「癒着胎盤による患者死亡事例」において、担当医師が逮捕、起訴された事件は、現役の産婦人科医達にも非常に大きな衝撃を与えました。予後不良の疾患に対して、患者救命のための治療に最善を尽くした医師が、治療の結果次第で、凶悪事件の犯人と全く同じに扱われるようになってしまえば、救急医療や産科医療に従事しようとする者などいなくなってしまうのは当然でしょう。

この事件の影響もあって、1人勤務の産婦人科では分娩取り扱いの継続は非常に困難な状況にあり、1人勤務の産科施設のほとんどは、今後数年以内に分娩取り扱いが中止され産科の集約化が進むだろう。また、現在60歳以上の産婦人科医のほとんど全員が10年後には現役を引退していることも間違いないだろう。このままでは10年後には、日本中で妊娠しても分娩を受け入れてくれる産科施設がみつからないような地域が多くなっていくことが危惧されます。

どうすれば、産婦人科医を増やせるでしょうか。

今後、国、自治体、市民が挙げて、この問題の解決に真剣に取り組んでゆく必要があると思います。



産婦人科医の妊娠・出産体験記

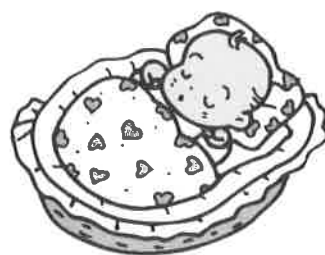
津田産婦人科医院

津 田 恵

私は3回の妊娠、出産を経験し、現在小学3年生、幼稚園年長児、2才児の3人の子育て真っ最中です。初めての妊娠が判明したときは子供を授かった喜びとともに、今まで産科医として診ていた妊娠というものを実体験できるうれしさでいっぱいでした。当時は大学から派遣され、高岡の病院に勤務していました。来院される妊婦さんには親切な病院でしたが、妊娠した女医は妊婦である前に女医であるという認識であり、分娩件数、手術件数とも多かったので、勤務状況はかなり厳しいものでした。先輩女医のはからいで、当直回数はかなり減らして頂きましたが、産休まで週1回、手術や分娩も非妊娠時と同じようにしていました。つわりの時期の深夜勤務はかなり厳しく、トイレと分娩室を往復しながら、最後は産婦人科医の使命感のみで、分娩介助を成し遂げたこともあります。難産に遭遇したときは、妊娠中であることも忘れ、押して、引いての分娩も経験しました。大きなお腹を手術台に押し付けながら手術をし、手術終了後「ごめんね」と言いながら何度もお腹をさすったものです。つわりで嘔吐ばかり繰り返し食べられない時期も、やっと妊婦さんのつらさを体験でき、少し優しい産婦人科医になれるはずだと、ほとんどのことをプラス志向に考えていました。産婦人科医として幸せな出産ばかりでなく、悲しい出産なども経験しましたが、自分の出産に対しては不思議と不安はなく、これから体験できる出産を胸躍らせるように待ちわびていました。少し変人と思われるかもしれませんが、陣痛の間

も痛みを耐えるの楽しんでいました。どんな体勢をしたら楽になるかためしてみたり、このぐらいの痛みなら子宮口の開大はこれくらいだろうと予想してみたり（的中率はかなり良かった。）ここで浣腸したら分娩が進行するのではと助産婦に浣腸をお願いしたりもし、実際この後かなりのスピードで分娩が進行しました。分娩台でいきむときも、自分が指導していたとおりに実行したところ、かなりスムーズに進行し、少し自信になりました。そんなこんなで、可愛いわが子に無事会うことができ、楽しい出産も終わりました。これから楽しい子育てが始まるはずだったのですが、周囲の目はもはや女医としての認識になっており、女医が育児休暇を取った前例がないということで私も認めてもらえず、育児に未練を残しながら産後8週で仕事復帰しました。当時夫は大学勤務でかなりハードな勤務状況だったので、ほとんど帰宅しませんでした。一人での育児と仕事の両立は精神的にも肉体的にもぎりぎりの状況が続いていました。子供は朝の7時半から夕方7時まで保育園でお世話になり、私が見る娘の姿はほとんど寝顔でした。園に迎えに行っても、喜んでくれることもなく、母親として認識されていないのではないかと不安になり、ここまで生活を犠牲にしてまで仕事をしなければいけないのかという葛藤もありました。しかし、自分だけでなく同僚の医師たちにも多大な負担をかけていたので、なんとか頑張らなければと日々自分を励ましていました。このような日々が1年半続いた頃、夫の長野県への異動が決まり、私も限界に達していたので、退職させていただきました。

現在産婦人科医は女性医師の増加傾向にあり、40歳未満の50%以上、20歳代の70%を女性医師が占めているそうです。近い将来、産婦人科診療の70%を女性医師が占めることとなります。女医が妊娠、出産した場合でも、いかに離職させないかが今後の医療崩壊を防ぐ有効な手段の一つにつながると考えられます。女性医師が仕事とともに安心して妊娠、出産、育児ができる環境が整うことを願うばかりです。



春の日に

とよだ眼科クリニック

豊田 葉子

つい最近、風のない穏やかで暖かな夜に、ライトアップされてみごとに咲き誇る満開の大きな桜の下で、ピアノとバイオリンのミニライブコンサートを楽しむ機会がありました。散る寸前の桜の花びらで枝がたわんでいるような少しだけゆらゆら揺れるさまは、心地よい音楽とともに日常の雑事を忘れて不思議な時間を楽しませてくれました。ただし音楽の知識が乏しいわたしには日本の風流な景色のなかでは喫茶店のBGMのようなクラシック音楽よりも、「コブクロ」のCDでも聴きたい雰囲気でしたが。そのときふと思い出したのは、先日、当院に1年前より通院しておられる患者さまが残念ながら水泡性角膜症という疾患のため角膜混濁が進行し、とうとう角膜移植のための予約を大学病院でされてこられたことです。わたしは詳しくないのですが、手塚治虫さんの漫画にブラックジャックというのがあり、角膜移植を受けた人の角膜提供角膜は実は殺された人のものだったため、殺される瞬間にその犯人の顔が角膜に焼きつき、移植を受けた人もその犯人の顔がみえるという話があるそうです。医学的には間違いであり、角膜から入った像は透明な眼球内部を通過し、網膜から視神経細胞のニューロンシステムを介し、脳細胞で認識、記憶されているはずですが、わたしの患者様も今は見えにくくても過去の美しい記憶は失われずに「見えている」はずでしょう。そして手術後ふたたびその記憶に新しい記憶が追加されていくことでしょう。わたしが先日本当は脳細胞に記憶している「まぶたに焼きついた」美しい満開の桜のように。



百寿者

ながいクリニック

永井忠之

今年には百にまつわる事柄が多い年です。正月早々私の患者さんが日出度く満百歳を迎えられ、市長さん始め周囲の方々より祝福を受けられました。我が母校砺波高等学校も創立百周年を来る平成21年に迎え、記念事業を行うとの事ですし、砺波医師会も今年の総会でやはり平成21年に百周年記念誌の発刊が承認可決されています。私が会員の日本老年医学会では百歳の方を「百寿者」といい研究会もあります。私もこの十数年間で8人の百寿者を診察致しました。男性は1人女性は7人で研究会のデータと同様女性に長寿が多い様です。百寿者研究会の結論として、遺伝的にも特別でなくても運がよければ百歳まで誰でもたどり着くことができるだろうという説もありますが、私はやはり百寿者はエリートのように思います。例えば寝たきりの人は8人中1人ですし、いわゆる認知症の方も2人でした。長生きすると認知機能の衰えは避けがたいことですが、予防の手掛かりとして魚に多く含まれるエイコサペンタエン酸（EPA）の濃度が認知機能異常のないグループが重度の認知症のグループに比べEPA濃度が3割ほど高かったと記述されています。私の百寿者の方々も魚を含めて好き嫌いなく何でも腹八分目の食事を心掛けているとおっしゃいます。性格的にも誠実性で几帳面で、外向性あり、よくお寺まいりなどして社会的で好奇心旺盛な開放性の性格の方が多く、特に感心することは家族の方々から大切にされている方ばかりです。ストレスへの耐性も強いことが長寿につながっている可能性がある様です。特にいわゆる嫁姑の関係がうまくいっています。見習うべきことと思います。私は現在数え年99歳の白寿の方3人を診ています。せめてこの方々が百寿のお祝いを受けられるまで私も食べすぎない様に心掛け、健康に気を配りなるべく頭を使い地域の方々の健康を守ってあげたいと思うこの頃です。



美術館あれこれ

砺波誠友病院

中 嶋 憲 修

認定医などの資格更新に必要なので、学会参加のため日本の各地方に行きますが、中でも圧倒的に多いのが東京です。その際貴重な息抜きの場として訪れるのが美術館（博物館も）です。東京は美術館の宝庫で、規模や数において、他都市は比較になりません。質も高く、例えば上野駅近くの国立西洋美術館は、特別展はもちろんですが、常設の名画の数々に圧倒されます。極めて貴重なラ・トゥールの「聖トマス」がさりげなくかざっており、クールベ「波」やピサロ「立ち話」、他ゴーギャン、ルノワール、ゴッホ、ドラクロワ、ピカソ等々、モネに至っては「睡蓮」シリーズでさえ、10点ほど展示してあります。又、行くたびに内容は部分的に入れ替えてあり、所蔵量の多さがうかがえます。逆説的ですが、常設作品を見るために特別展に行くような面もあります。

次に、地下鉄東西線竹橋駅近くにある、東京国立近代美術館も日本画を含め常設作品が豊富で、なんと九千点近く所蔵しているそうです。特別展のほか、ミニ特別展もよく開催されており、こちらも訪れるたびに新たな気分にあふれます。ここの4階の休憩コーナーからの眺めはすばらしく、皇居や都心のビル群はまさに首都東京です。少し歩けば、国立公文書館、工芸館があり、皇居内の散歩も可能です。

私設美術館での私のお気に入りにはブリヂストン美術館です。東京駅や日本橋駅に近く、印象派を始めとした、秀逸なコレクションです。私の最も好きな絵画の1つである、ラウル・デュフィの「オーケストラ」という作品が常設展示してあり、私はそのリトグラフを購入したほどです。館内には、同じく常設展示のルノワールの有名な絵から名前をとった「ジョルジェット」という喫茶があり、コーヒーやサンドイッチなどおすすめです。

さてその他都内には、大きな又は個性的な美術館が数多くありますが、私からみた望ましい美術館の条件を挙げると、常設展が充実し、落ち着ける喫茶かレストランがあり、なるべく都心で駅に近く、（タクシーの運転手は、美術館はまず知りません）遅くまで開いていることです。ブリヂストン美術館がほぼ条件を満たすと思います。都内の美術館や博物館は大概一度は行ったことがあります。まだ全館制覇とまではいきません。いつか余裕ができれば、世田谷美術館など行きにくい場所にも挑戦したいと思っています。

隣の中国

仲村皮膚科医院

仲 村 洋 一

あまりにも患者が少なく、診察室の椅子でウツラウツラとなる。昨年春の敦煌で、ラクダに乗ったのを思い出し、「月の砂漠」の歌の世界に入っていく。実際は糞まみれのラクダだったのだが。

身振り手振りしながら「no、no、50元」。向うは砂時計の大きいのは1000元、小さいのは100元と途方もない値段を言う。見るからにお粗末だが、中国で欲しい物はなく、何か記念にと鳴沙山の砂(?)の砂時計を道端で売っている連中を相手に値切った。そのあとダッシュで1 km位ラクダ隊の出発点まで追いかけた。

玄奘三蔵も通ったという中国側シルクロードの西端カシュガルの更に数十キロ離れたカラクリ湖畔で、板の上に鉱石を少し並べた店があった。その中でも一様に鮮やかな紫色をした水晶があり、これを買った人は帰りのトランクのなかでゆさぶられている間に、これが欠けてきて中から粉が出てきたと言っていたし、僕の値切って買ってきた砂時計も底より砂が少しずつ漏れてきた。

富山空港で参加者より注文をとったみやげ物を旅行会社の人が開けると、注文数よりかなり少なく、言っていない物を少し入れてごまかしてあった。何か呆れたというか、したたかな国民性がうかがわれた。

最近のギョウザ事件も強大な力を持つようになった中国は黒をも白と言い切っている。隣の国とは仲良くせざるを得ないし、又、砺波市にも多くの中国の人が入ってきている。患者も少なからず、もう帰るので薬をもっと多く欲しいと言うが、最高30日分までだと言うと残念がる。ミズムシの軟膏はおみやげにでもするのかと思いたくなる位に請求することがある。

あっ。患者さんが来られたようです。これで失礼します。



新入会員紹介

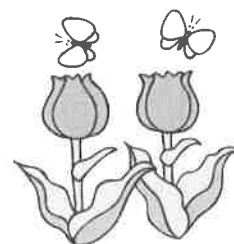
市立砺波総合病院
健診センター

瀧 鈴 佳

H18年1月より砺波総合病院健診センターに勤務しております。富山県医師会は再入会となります。宜しくお願ひ致します。

S59年神戸大学卒で、同年金沢大学核医学診療科に入局しました。核医学教室ではモノクローナル抗体を用いた腫瘍免疫核医学を研究テーマにしておりました。大学院卒業後はこの領域の研究からは離れてしまいましたが、抗体を用いた診療については、最近になってようやく実診療の現場で、そのめざましい成果を見られるようになり、感慨深いものがあります。富山県の病院では他に、入局後間もない頃、北陸中央病院に勤務していたことがあります。当時は若かったので中型2輪に乗って通勤したこともありましたが、現在では身体能力の衰えも進み、単車に乗ろうなどとは考えもつかないことであります。砺波総合病院勤務は以前の放射線科以来2度目になります。自身の専門は核医学の他、乳腺・甲状腺の放射線診断および針生検ですが、現在は健診センターで健診受診者の診察および乳癌検診を主に担当しています。

砺波に再勤務したのを機に、砺波の花であるチューリップの新種の開発を目指し、病院近くの富山県花総合センターの担当者に教えていただいて、去年から自宅で交配による品種改良を行っています。今は、種からまいた1年目のチューリップがねぎの子供のような葉っぱを出したところで、6月頃に最初の球根が採れる予定です。遺伝子操作による方法と異なり、交配による品種改良ではあまり大きな性質の変化は期待できないと思いますが、それでも最初の花が咲くまであと4年間、楽しみです。将来良いものができれば、砺波のチューリップフェアに出展できるかなと思っています。



遊びをせんとや・・・

－ 杏和会婦人部研修のお知らせ －

2008年度 幹事

藤井 羊子、藤井 浩子、高橋 睦美

人は、何のために生きるのか…。仕事をするため、はたまた遊ぶため!? いきなり哲学的ですが、皆様は、何のために生きているとお考えでしょうか。万葉の時代、歌のなかで楽しむと表現されているのは現代では遊ぶと同義語と解釈されるとか…。又、生物の中で遊ぶ事が出来るのは人間だけでもいわれています。(最近の研究ではそうでもないようですが…)

遊びにも様々な形がありますが、子供が無我夢中になって体をつかって遊ぶ、大人が遊技場(パチンコ等)で楽しむのも遊びのひとつ。音楽を聴く、優れた絵画を鑑賞する、スポーツを観戦する、演奏を楽しむ、絵を描く、スキー、ゴルフ、野球をするなどなど…。この様な場では日常の生活の中で会う事のない人々との交流が生まれたりしますね。これも遊びの効用のひとつではないでしょうか。

大人になると、遊ぶという事を忘れがちになります。遊びを自分の生活の中でどのように捉えるのかは人、夫々ですが、遊びを楽しむと置き換えれば主婦も楽しんで家事をすれば、それも遊び? 飛躍すれば、人生を楽しむ事が出来れば人生そのものが遊びになりますね。そう考えれば苦勞があってもまた楽し…。どんな経験も時がたてば綺麗な模様となってその人の人生を彩る…とNHK朝のドラマ“ちりとてちん”のなかで若狭塗箸の職人に言わせています。

杏和会婦人部の皆様、人生、楽しんでいますか? 1度も杏和会婦人部に出席されていない方、人生の模様をひとつ増やしませんか。

と、言うわけで下記の要項で“春の研修”を行います。先生方も、是非、出席為さる様、奥様にお勧め下さいませ。

ちなみに、私、”遊びをせんとや、生まれけん”です。

文責：高橋 睦美

杏和会婦人部“春の研修”へのお誘い

日 時 : 2008年5月15日 9:00~17:00
集合場所 : 砺波駅南口(9:00)
行 先 : 富山県近代美術館(日展鑑賞)・岩瀬:松月で昼食・
岩瀬町散策・富山大和フェリオ見学・砺波駅南口(解散)
会 費 : 15,000円

砺波医師会誌 第190号

編集後記

今年は桜の開花が日本全国で例年に比べて早かったですね。北海道でも4月中に花見ができるとはびっくりでした。

春に相応しい爽やかな、そして示唆に富む話題や現在の厳しい医療情勢に関するご指摘など今回もたくさん届けていただきました。おかげさまでにぎやかな杏和だより第190号を発行することができました。ご寄稿いただいた皆様方には改めて感謝申し上げます。

さて、皆様方は砺波医師会のホームページをご覧になったことがありますか？今年3月から砺波市の医療施設マップを新調しました。今までは県医師会のものを利用しておりましたが、砺波市独自になりました。医療施設名をクリックすると地図上にその場所が表示されますし、地図上の風船（あるいは気球？）状の目印をクリックすると医療施設名と住所、電話番号が現れます。これから市内の医療機関を受診しようとする方にとっては利用しやすくなったのではないかと自負しております。なお、診療科目、住所、電話番号に誤りはないと思っておりますが、これを機会に一度ホームページをご覧になってください。万が一誤りがあれば医師会までご連絡ください。

杏和だよりもホームページも少しずつ充実を図って行きたいと思っております。ご意見やご要望などがありましたら、お気軽に広報委員あるいは医師会までご連絡ください。今後ともよろしく願いたします。

福井 靖人 記

〔広報委員〕 家接 健一、藤井 正則、柳下 肇、福井 靖人